

Letter from Tsuruno Meguro to Fumio Fred and Yoneko Takano, August 17-20, 1942

二三男米子さん、いかがですか。私達皆元気で居りますよ。

ポモナ出発しまして、アリゾナまで二つエンジンで山をのぼりますのであるくようにスローで、アリゾナ過ぎまして、一つのエンジンでした。昼までは暑くありませんでしたが、昼から暑いこと、湯の中へは行って居りますような暑さで、アイス水ばかりのみました。見渡すかぎり山また山。又野原パカダムへん通ります時の暑い事。キャンプに居ります皆さまを思いやられます。さばくで木は一本も見えませんでした。またよほど来ました所に兵隊さんのれんしゅうする所かわかりませんが大きな所へ今アブラをぬりましてこしらえて居りました。アリゾナ半分頃ニーメキシコはマツの木がどこまでもどこまでも生えいてきれいでした。さすが米国どこまで行っても野原ばかり。ラハンタへ着きましたのは十九日午前六時半。夢にもここへまわって行くと思いませんでした。自由になりませんから、ハガキ平平ころ山田さんに出しました。ほんとうになつかしい地。昔の事を思い出してなんともいいようのない心地いたしました。シインクロッキホード、アリゾナ、ニーメキシコ通りました所ではコロラドが一番よい土地でよい作物でした。今年はコン、アニオン、ダイコン、ヘイとてもよいですよ。皆も一かりますよ。チャンロップもパーキンして居られたようでした。日本人一人も見ませんでした。所々へおろしますけれども、汽車のそばより遠くへはいかれません。デンバーでテガミ出そうと思ひまして書きましたけれども、いれられませんでした。シャイアンへ夜八時頃でした。それから、ワイオミング夜中朝になりまして、見ますとどこまでも野原所々で、シカ、キジ見ました。九時半頃から山と山の間、トンネルがいくつも有りくらくになると、小さい子なきますのよ。其の子はまた三ツ位でしょう。ままだこへいくのいくのときくすのよ。なかなか汽車の中は、にぎやかですよ。食堂は汽車の中、コックは白人ウエイターは黒さんととてもよくして下さいますよ。ターキ、チケン、三ヶ月半ぶりで食べました。おいしかったですよ。オレンジ、ココッケンはごはんの間間に下さいます。生まれて初めて長い長い道中でした。夜気の中で寒い位でした。山と山の間を通りなかなか景色のよい所おゆげ下からもくもくわき出ておった所もありました。キャンプから二百哩ばかりてまいる川がありコンペイ、ダイコン、ムギも作ってありました。ワイオミングもハシノ方で汽車は本せんから四十二哩。其の間川に水がたくさんあって作物も、とてもよく作ってあります。

汽車の中にて

ようやく我等の住む家へ午後六時につきました。家はとてもきれいで、コールタクシトフーツついでありますから寒くも心配ありません。只あなた達と遠くなりましたので淋しいように思います。食堂もフロも一人ではいるフロせんたく場、顔洗う所同じ所でとてもよく出来てありますよ。また家をかたつけますので仕事が出来ました。四日と三ナイトかかりました。とりあえず無事ですきましたから、御安心下さい。

あなた達も仲よく、御体を大切に下さいませ。さようなら

ママより

二三男様へ  
よね子様へ

また、よし子も書きますから

[Written in the train and at the Heart Mountain camp]